

公表

事業所における自己評価総括表

| | | | |
|----------------|------------------------|---|----------------|
| ○事業所名 | 居宅訪問型児童発達・保育所等訪問支援パラソル | | |
| ○保護者評価実施期間 | 2026年 1月 19日 | | ～ 2026年 3月 13日 |
| ○保護者評価有効回答数 | (対象者数) | 6 | (回答者数) 4 |
| ○従業者評価実施期間 | 2026年 3月 3日 | | ～ 2026年 3月 13日 |
| ○従業者評価有効回答数 | (対象者数) | 2 | (回答者数) 2 |
| ○訪問先施設評価実施期間 | 2026年 1月 19日 | | ～ 2026年 3月 13日 |
| ○訪問先施設評価有効回答数 | (対象者数) | 4 | (回答者数) 2 |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 2026年 3月 28日 | | |

○ 分析結果

| | 事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等 | さらに充実を図るための取組等 |
|---|--|---|--|
| 1 | 学校内での研修講師を依頼されるなど、訪問先にご満足いただける知識・技術・経験があります。 | 行動障がいの特化した保育所等訪問支援事業所として、自傷や他害、物壊しが激しく出ている急性期にどのような支援を構築したら良いのか、日々勉強と情報収集を重ねています。 | 関係機関や強度行動障がい支援における中核的人材との連携を図り、多層的な支援が提供できるようにします。 |
| 2 | 課題を整理するかと、それを学校現場で実践するためのご提案ができます。 | 学校の中での再現性があるものをお伝えするように常に意識しています。 | 課題整理のためのツールを学校と共有して、私たちの訪問がない状況でも、課題整理ができるような間接支援も視野に入れて今後の事業展開を行なうようにします。 |
| 3 | 訪問頻度を増やし、支援の継続性を担保しています。 | 行動障がいの急性期にある児童について、必要があれば給付支給量を増やすことを助言したり、申立書と今後の支援内容を一緒に考えたりしています。 | 現時点ではまだ非連続な支援となっています。連続的な支援として効果を高めるよう、例えば訪問とオンラインを組み合わせたり、動画でのフィードバックを行ったりすることも検討します。 |

| | 事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等 | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等 |
|---|--|--|---|
| 1 | 訪問日程の調整や、それに付随する連絡共有の体制がまだ整っていません。 | 開所してから間もないため、連絡系統が整備されていないままだったことが大きな要因です。 | 今後は毎月の訪問日を調整した際に、速やかに連絡共有するための仕組みづくりを行なっています。 |
| 2 | 訪問後の記録の共有が、数日遅れてしまうことがあります。 | 訪問日時を詰めてしまっていることで、訪問当日中に記録を共有することが物理的に難しいスケジュールになっていたことが大きな要因です。 | スケジュール自体はまだ余裕を持った調整が難しい状況ですので、今後工夫が必要です。 記録の書き方についてはある程度のパターン化をして効率化できる部分があります。また、児童についての情報も蓄積したのでより効果的効率的な記録と助言が共有できると考えています。 |
| 3 | チーム支援の体制はまだ取れていません。 | 現時点ではまだ必要性を感じていないことが大きな要因です。 | 必要となった際に迅速に組織化できるよう意識して組織体制を強化しておきます。 |